

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

別紙様式2(高)

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人を大切にし、誰もが安心して学べる温かみのある学校 ○ 多様性を尊重し包摂的な意識を育む学校 ○ 個に応じた学力を保証し、確かな進路実現力を育てる学校 ○ 自らのよさや可能性を認識し、適切な自己決定ができる力を育てる学校 ○ 地域や多様な人材とつながり、持続可能な社会づくりに貢献する学校 		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの個性や強みを深く理解し、肯定的に受け止めることで、日常生活や社会生活において適切な自己決定ができる力 ○ 個々の学力を基盤としながら、自らの興味・関心や適性に応じた目標を設定し、その達成に向けた粘り強い取り組みにより、生涯にわたって学び続けようとする力 ○ 多様な立場や価値観を理解し、思いやりと他者尊重の心をもって他者と関わることで、信頼と協力に基づく人間関係を築き、協働してより良い社会の実現に貢献しようとする力 ○ 地域の一員としての自覚を持ち、地域の課題に関心を寄せ、地域社会の活性化や持続可能な社会の実現に向けて当事者意識を持って参画し、主体的に行動する力 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりに寄り添った学習指導の推進 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現 ○ 多様性を尊重しながら、共に学び協働する力の育成 ○ 安心して学べる学習環境の整備 ○ 個の特性に応じたきめ細やかな進路支援の実施 	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心できる学びの場の中で、自分らしく学びたいと願う生徒 ○ 他者との違いを前向きに受け止め、多様な価値観や背景への理解・尊重に向けた意志のある生徒 ○ 進路実現に向け、粘り強く取り組む意志のある生徒 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> 普通科、機械・情報技術科、商業科を有する特長を生かし、幅広い選択科目を設定し	教育課程の充実	①「個々のよさや才能を開花させる基盤づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ○ 入学生の実態を詳細に分析し、一人一人の学習状況に対応した習熟度別・少人数学習を実践する。 ○ 各学科の独自性と強みを最大限に活かした特色ある教育課程を編成・実現する。 ○ 多様な進路希望に柔軟に対応できる教育課程を整備する。 	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

<p>たり、課外活動を充実させることにより、資格取得や個々の希望進路の実現に力を注いでいる。</p> <p><課題> 令和3年度入学生から、機械科、情報技術科の2学科が、機械・情報技術科の1学科になったことに伴い、教育課程やコース制を柔軟かつ円滑に運営することが求められる。</p> <p>また、本校の教育目標である、次の1～4を達成するために、地域や関係機関との交流・連携を深め、進学・就職と多岐にわたる進路希望の実現を継続していくことが求められる。</p> <p>1 一人ひとりの個性を生かし、学ぶ意欲や創造性を育む。</p> <p>2 豊かな人間性や社会性を育む。</p> <p>3 健やかに生きるための丈夫な身体を育む。</p> <p>4 産業社会の発展に貢献できる力を育む。</p>	<p>学習指導の充実</p>	<p>②「知る喜びと探究心を育む学びの場の創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの効果的活用により、学習内容の理解度向上と学習意欲の喚起を図る。 ○ 各種テストによる理解度の可視化と、それに基づく個別最適化された指導を通じて、基礎・基本の確実な定着を実現する。 ○ 観点別評価を用いた学習評価により、個々の課題を明確化し学習意欲の向上につなげる。 ○ 高度な問題への挑戦機会の提供など、進学希望者向けの個別指導を充実させ、学力の更なる伸長を図る。 ○ ICT教材の研究開発、教員間の授業相互参観、教科内連携・研修を通じて、指導の質的向上と革新を推進する。 ○ 問いの立て方や情報収集・整理分析・まとめ・表現の指導を充実させ、自ら課題を発見し解決する探究的な学びを推進する。 	
	<p>進路指導の充実</p>	<p>③「未来を切り拓く力の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 傾聴力・表現力・社会人基礎力を段階的に育成する3年間一貫の指導体系を構築し、進路実現力の向上を図る。 ○ 外部専門家との連携、インターンシップ、進路説明会への主体的参加を通じて、キャリア意識の醸成を促進する。 ○ 学習意欲の喚起と計画的な課外授業の提供により、大学進学に対応できる確かな学力の獲得を支援する。 	
	<p>生徒指導の充実</p>	<p>④「自律と共生の精神を育み、規範意識の確立」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的な生徒理解のため、個別面談、意識調査、家庭訪問、特色あるホームルーム活動を積極的に展開する。 ○ 挨拶・身だしなみ等のマナーの重要性を理解させ、社会性と基本的生活習慣、規範意識の確立を促進する。 ○ ボランティア活動への参加を奨励し、社会の一員としての責任と自覚を養う機会を創出する。 ○ 学校・家庭間の緊密な情報共有体制を構築し、問題行動の未然防止および早期解決を図る。 	
	<p>特別活動の活性化</p>	<p>⑤「協働と挑戦を通じた成長の場の創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生の部活動への積極的参加を促し、学校全体の活力向上と、規律ある生活態度・自律性を備えた生徒の育成を図る。 ○ ホームルーム活動、委員会活動、生徒会活動の内容を充実させ、全ての生徒が自主的・主体的に参画できる環境を整備する。 	
	<p>キャリア・パスポートの積極的活用</p>	<p>⑥「自己成長の軌跡を記録した、未来への道標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業、学校行事、部活動などの多様な経験において自己目標を設定し、定期的な振り返りと修正を通じて、自分らしい生き方を模索する力を育む。 ○ 地域社会や企業との連携を通じて、学びと働くことの意義を考察し、現在の学習と将来像を有機的に結びつける視点を養う。 	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		地域連携の推進	⑦「開かれた学校づくりと地域貢献」 ○ 学校ウェブサイトの内容充実により、保護者・地域・中学校等への効果的な情報発信を強化する。 ○ 学校外からの意見や評価を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会の三位一体による教育活動を展開する。 ○ 地域行事やキャンペーンへの積極的な参加を奨励し、地域社会との連携強化と生徒の活躍の場の拡大を図る。			
		働き方改革の推進	⑧「教職員の専門性と創造力を最大化する環境整備」 ○ 業務の性質に応じた適切な役割分担（学校外が担うべき業務、教師以外が担当可能な業務、教師の負担軽減が可能な業務）を見直し、教員の本来業務への集中を可能にする。 ○ 勤務時間の可視化管理、各種活動の時間設定の適正化、学校閉庁日の設定、ICT教材の共有化により、意識改革と時間外勤務の抑制を図る。 ○ 教職員間の相互理解と協力体制を強化し、業務負担の平準化と職場環境の改善を推進する。			
		授業改善の推進	⑨「未来を見据えた学びの質的転換」 ○ カリキュラム・マネジメントの一環として全教職員が授業研究協議に定期的に参加する機会を設け、教科等横断的な視点から多様な意見を交流することで、組織的・計画的な授業改善を推進する。 ○ 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づき育成すべき資質・能力を明確にした上で、授業の各要素（ねらい・課題・発問・板書・まとめ・振り返り）を工夫するとともに、評価規準を生徒と共有し、指導と評価の一体化を図る。 ○ 生徒による授業評価及び教員間の相互参観・協議を組織的に実施し、その結果を指導改善に確実に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた継続的な授業改善を行う。 ○ 生徒の実態及び各教科の特質に応じて ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることで、多様な学習形態と表現活動を実現する。 ○ 指導計画・教材・指導資料の組織的な共有を促進し、カリキュラム・マネジメントの実践を通じて、学校全体で授業の質を高める協働的な研修文化を醸成する。 ○ 生徒による授業評価において、授業満足度（KPI）3.4以上の達成を目指し、その結果を授業改善の指標として活用する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度（学期）への 主な課題
国語	言語活動を通じた資質・能力の育成と知識・技能の定着	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して的確に理解し、効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。そのため、単元ごとに指導事項を明確にした上で適切な言語活動を位置付け、3観点に基づく評価規準を設定することで、指導と評価の一体的な改善を図る。 ②⑨				
	ICTの効果的な活用と主体的・対話的で深い学びの実現	言語活動の充実を基盤とし、ペア・グループでの話し合いや論述などの領域を重視した授業を展開する。その際、ICTを言葉の働きへの理解を深める手段として計画的に活用し、生徒が見通しをもって主体的・対話的に学べる授業づくりを推進する。 ②⑨				

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

各 教 科		授業改善	単元を貫く言語活動の設定と評価規準の明確化・生徒との共有を通して、学びの意義を実感できる授業改善を継続的に行う。また、生徒による授業評価において授業満足度（KPI）3.4以上の達成を目指し、その結果を次年度の授業改善に活用する。 ②⑨		
	地理 歴史	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る ②		
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図ると共に、個別最適な学習の実現にむけた授業改善を行う ②		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨		
	公民	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る ②		
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図ると共に、個別最適な学習の実現にむけた授業改善を行う ②		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨		
	数学	個別最適な学習支援	生徒自身が目標設定・振り返りを行う授業展開をとおして、個に応じた適切な学習支援を行い、数学の学びに対する苦手意識を緩和し、基礎学力の定着を図るとともに自己肯定感を高める。 ②⑨		
		学びに向かう態度の醸成	探究活動やICT機器の活用など、単元に応じた様々な働きかけを行い、学習意欲を高める。 ②⑨		
授業改善の推進		他教科との連携を通じたSTEAM教育や、教科内での情報交換・教材共有を積極的に行い、授業展開を見直し、授業満足度（KPI）の平均が3.4以上となるよう授業改善を図る。 ②⑨			
理科	基礎学力の定着	理論の有用性に気付き、主体的に学ぶ姿勢が向上するような授業を実践する ②			
	実験・観察の充実	生徒の意欲・関心を高める実験・観察を積極的に取り入れた授業展開を図る ②			
	主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	調べ学習、グループワーク、振り返り等の実施や、ICT機器の適切な活用により、主体的・対話的で深い学びの実践を目指す ②⑨			
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるよう、教科・科目の特性を生かした授業改善を図る ②⑨			
各 教 科	保健 体育	技能の定着	個・グループの実態に応じた指導方法の工夫と反復練習により、技能の定着を図る ②		
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図り、主体的に学びに向かうことができるように授業改善を行う ②		
		運動器具・設備等の安全管理と確保	体育用具・設備の安全管理の徹底を図る 安全点検を定期的実施する ②		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨		
各 教 科	芸術	基礎・基本の定着	個人に応じた課題を設定し、音楽に関する基礎的な知識と技能の定着を図る（音楽） ②		
			色彩練習による美的感覚と鑑賞能力の育成を図る（美術） ②		
		興味・関心の向上	多様な作品の学習によって音楽への興味関心と自己表現力の向上を図る（音楽） ②		
			作品の鑑賞及び制作を通して自己表現力の向上を図る（美術） ②		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

外国語	基礎学力・基本事項の定着	主体的な学びを推進し丁寧な反復指導により基礎・基本の定着を図る ②③		
	興味・関心の向上	ICT など教育機器を適切に活用し、生徒の英語への苦手意識の解消を図る ②③		
	個に応じた学習指導の充実	生徒の実態や進路希望に応じた支援体制を構築する ②		
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨		
家庭	基礎力の定着	生徒の個性や強みを理解し、個に応じた授業内容の工夫ときめ細かい指導の実践を図る ②		
	実験・実習等の教育環境の充実	安心して学べる環境の整備と安全に配慮した実験・実習等の充実を図る。ICT を効果的に活用し教育内容の充実をめざす ②		
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨		
情報	情報活用能力の向上	1. 情報社会と問題解決 2. コミュニケーションと情報デザイン 3. コンピュータとプログラミング 4. 情報通信ネットワークとデータの活用 の4分野を基礎から学ぶ。 ①②		
	情報社会における望ましい態度の育成	著作権・肖像権等の情報倫理を身に付ける。コンピュータ、スマホ等でネットワーク、SNSを利用する際のマナーや注意力を高める指導を展開する。 ②		
	「小規模校支援型遠隔授業」の円滑な実施	高校教育課、配信校等と連携を図り、「情報I」の遠隔授業の円滑な実施、運用を進める。 ⑧		
機械・情報技術科	実践的な能力と態度の育成	座学と実験・実習を横断的に取り入れることで、基礎学力の定着および集中して話を聴く姿勢の育成を図る ①②④		
	安全の確保や事故の防止	実習項目として安全教育を取り入れ、その充実及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める ④		
	各種資格の取得	授業や補習をとおして、資格取得の支援に努める ②③		
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように、ICT 機器等を使用し授業改善を行う ②⑨		
商業科	コミュニケーション能力の育成	地域住民や企業、高等教育機関との協働を促進することで、販売実習などの体験的な学習を通し、社会人基礎力が醸成されるような活動を推進する ②③⑦		
	商業教育のスキルアップ	生徒一人ひとりの理解度や能力を把握し、個々の目標や課題に寄り添った支援に努める ①		
		ICT を効果的に活用し、教材の共有や個に応じた支援、情報活用・発信能力の育成を図る ①②⑧		
授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるよう、生徒の興味・関心と実学的な学びを意識し、生徒が主体的に参画できるような授業改善を図る ②⑨			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
	校務全般の円滑	中学校訪問等を通して、本校の取り組みや長所を積極的に広報し、入学希望生徒の拡充を図る ②		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

教 務	運営を図る	各校務分掌や学年との情報交換を密に行い、適切な連携・調整に努める	②⑨		
		各分掌の企画や業務内容を把握し、的確な調整を行い、円滑な学校運営に努める	⑧		
	行事等の円滑な企画・運営	教務部内の業務を複数人で担当することで、業務量の平均化を図る	⑧		
		年間・月間計画の企画・立案と適切な変更・調整に努める	②⑧		
	成績不振者等への適切な対応	定期考査の事前指導を適切に行い、生徒への周知徹底を図る	②		
		成績不振・遅進者に対する課外指導・個別指導等を、教科・学年と連携し、年間を通して計画的に行う	②		
		欠課時数の多い生徒に対して、適切な指導に努める	②		
	適切な情報管理	成績処理と事務処理の効率化を図る	①②		
		ICT を活用した授業の充実を図れるよう、電子黒板やタブレット端末等の機器管理や研修の充実に努める	②⑨		
		ホームページなどを有効活用し、校外への情報発信の充実を図る	①～⑥		
校内ネットワークの保守管理及び個人情報の管理の徹底を図る		①～⑥			
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行を主眼とした、計画的な登下校指導等を行う	④		
		遅刻を防止する「遅刻カード」の利用及び指導の徹底を図る	④		
		服装・頭髪に関する教職員の共通理解と、家庭との連携の徹底を図る	④		
	規範意識の向上	規範意識の確立やマナーの向上を目指し、全校集会・学年集会・HR・ICT 等を活用した指導を促進する	④		
		規範意識の向上を目指し、ボランティア活動及び特別指導の内容の充実に努める	④		
	安全で充実した学校生活の実現	問題行動（薬物等）や交通事故の未然防止を目指し、学校内外における計画的な巡視指導を行う	④		
		自転車・バイクの点検と実技指導を計画的に実施する	④		
社会の変化に対応する能力の育成	携帯電話・スマートフォン、SNS 等の正しい利用方法の指導の徹底を図る	④			
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧			
進路意識の高揚		生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める	③⑥		
		生徒面談の励行に努める	②③④		
		進路適性検査・職業適性検査を実施し、分析結果を指導に活かせるよう情報提供に努める	③		
		キャリア教育を学年と共に計画的に実施する	③		
		ジョブナビセミナーにおける社会人講師の積極的な活用を推進する	③⑥		
	進路資料閲覧における環境の充実に努める	③			

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

進路指導		キャリアアップ・ガイドブックをWEB閲覧にし、活用方法の工夫を図る	③			
		進路決定報告会を計画的に実施する	③			
		事前・事後指導を工夫して、効果的なインターンシップを実施する	③			
	進学率の向上		オープンキャンパスへ自発的に参加できるように情報発信の方法等を工夫・改善する	③		
			総合型選抜・AO入試・推薦入試に向けた面接指導を学年と連携して行う	③		
			模試・課外への参加を呼びかけ、自己実現を図れるよう適切な支援を行う	②③		
	就職内定率の向上		職業安定所と密に連携（所長、学卒担当講話・ハローワーク訪問等）を図る	③⑥		
			WEB求人を活用した求人情報の提供に努める	③		
			卒業生の就職先への企業訪問及び求人要請訪問を計画的に行い、求人者数の確保を図る	③⑥		
			生徒の応募前職場見学について複数社見学を行い、早期離職の防止を図る	③④		
模擬面接指導を系統だてて実施できるよう学年と連携を図る			③④			
学力の向上		就職未決定者に対して合同面接会への積極的な参加案内と事前・事後指導を行う	③			
		学習実態調査の実施と分析結果を、学年やHRでの指導に活かせるよう情報提供に努める	②③			
働き方改革の推進		基礎力診断テストの解答結果から、自ら学習に向かう気持ちの醸成に努める	③			
		業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減に努める	⑧			
保健図書	一人ひとりの個性を生かし心身の健康を支援する	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減に努める	⑧			
		生徒の実態に応じた、専門家による学年別性教育講話を実施する	⑥			
		心身の健康状態の把握に努めながら、適切な指導・援助に努める	⑥			
		修学旅行前に保健調査・健康相談等を効果的に行い、事故防止の徹底を図る	⑥			
		保健便り等を活用し、生徒及び保護者の健康意識の高揚を図る	⑥			
	健康・安全に関する環境整備と校内の美化を地域と連携し努める		多様化した生徒に対応する外部人材も含めた支援体制の構築を図る	⑥		
			飲料水・プールの水質検査を計画的に行い、事故の未然防止を図る	②		
			委員会を活用し、清掃用具の整備や校内美化に努める	⑤		
	図書館利用及び読書活動の推進		地域と連携した防災訓練の実施により、防災安全意識を高める	⑦		
			図書や資料に関する適切な情報の提供に努める	③		
「朝の読書週間」を実施することにより、読書に対する興味関心の向上を図る			⑤			
委員会活動の活発化に努める			⑤			
働き方改革の推進		図書館環境の整備に努める	②			
		業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減に努める	⑧			
生徒会活動の充実		図書や資料に関する適切な情報の提供に努める	③			
		生徒の代表として、全校生徒の意見を集約し、各種行事の企画・運営に反映していけるよう努める	④⑤⑥			
		生徒会活動をとおして、主体的にPDCAサイクルを回し、協同して課題解決に向かうスキルを醸成する	②⑤⑥			
委員会活動の充		生徒が主体的に学校運営にかかわる機会を増やし、当事者意識をもって学校生活を送ることで、学校へ				

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

特別活動	実	の帰属意識を高めるとともに自己有用感を育む ⑤⑥		
		生徒、教員の希望を尊重し、配置をすることで、内発的動機付けからくる創造性・自主性の向上を図る ⑤⑧		
	行事内容の見直し	苦手な人も得意な人もみんなが楽しく参加できるよう、ユニバーサルデザインを意識した行事の企画、運営を行う ④⑤		
		文化祭の企画内容および運営方法について、生徒の得意分野や希望を元に適材適所に係分担を行い、生徒全員が責任感を持って企画、運営に関われる環境を整える。 ⑤		
	部活動の充実	部活動の参加率の向上を目指し、部活動をとおして自己理解を深め、他者と協調する機会をつくり、自己実現を促す ⑤		
ホームページや SNS 等を活用し、活動状況を定期的に発信することで認知を広め、生徒の加入を促す ⑤				
働き方改革の推進	業務の DX 化や教員の資質を踏まえた業務分担を行うことで効率化を図る ⑧			
渉外	PTA 活動の推進	PTA 総会や定例の評議員会を企画して情報交換に努めることで保護者と連携し、組織の円滑な運営を図る ⑦		
		PTA 活動の運営を通して、保護者の本校 PTA に対する理解を促進し、協力関係を築く ⑦		
		ICT 化を推進し、学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を図る ②⑧		
	特別活動の活性化	PTA 予算を適正に執行し、生徒の特別活動の活性化に協力する ⑤		
	地域社会との連携	PTA だよりの発行やホームページへの記事掲載などの広報活動を行い、学校教育活動への理解を図る ⑦		
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第1学年	集団における生活習慣の確立	あいさつを大切にし、集団生活のルールや公共のマナー・モラルをしっかり守ろうとする気持ちを育てる ④⑥		
		生徒の様子を正しく理解し、職員や保護者と協力して問題を未然に防ぎ、早く気づけるようにする ④		
		整理整頓、清掃を徹底し、教室環境の整備・美化に努める ④		
	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	基礎学力の大切さを伝え、毎日の授業を大事にしながら、学ぶ意欲と学力の向上を図る ①②		
		教科担当者との連携を密に行い、成績不振の生徒に対して個別に応じた指導・支援を行う ②		
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦できるよう支援し、合格・取得に向けたサポートを行う ②③		
	進路探究の充実	進路行事などの意義を丁寧に伝え、自分の将来を見据えて主体的に取り組む態度を育む ③		
		進路行事を中心に、様々な進路・仕事についての理解を深めると共に、適切な進路選択のための探究活動ができるようにサポートを行う ③		
年間行事を事前に伝えることで、スケジュールや情報の整理・管理をする習慣の定着を図る ③				
社会人に向けて	適切な行動をとれるよう、様々な場面で指導を行い「公共心」を育む ③④⑤			

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和8年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	の意識向上	探究活動をとおり、社会に関心を持ち、広い視野で物事を捉え、自身の考えを表現する力を養う①②③		
		相手の話を「聞く力」、他者の意見を尊重し互いに高めあう「相互啓発力」を育む ③④		
	情報リテラシーの育成およびICT活用能力	情報を収集・発信する場面において、その内容を正しく見極め、適切に伝える力を身につけられる能力を育てる ②④		
		タブレット端末を活用することで、「情報収集」・「整理」・「分析」をする能力を育てる ②		
働き方改革の推進	電子黒板の各種機能を活用することで、授業に積極的に参加する主体性を育てる ②			
	働き方改革の推進	業務の見直しと効率化を進め、時間外勤務の削減を図る ⑧		
第2学年	集団における生活習慣の確立	あいさつの励行や、時間・服装・提出物の期限を守るなど基本的な生活習慣の定着を図るとともに、集団生活において自覚的に行動するための意識の向上を図る ④⑥		
	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	日々の授業や定期考査をとおりして基礎学力の定着を図るとともに、授業態度の改善や課題提出の徹底を通じて学びに向かう基本的な姿勢の育成を目指す。ICT機器を活用して、基礎学力の向上・自主的探究心の育成に努める。 ①②④		
	進路意識の高揚	進路に関する個別面談や情報提供を行い、適性・希望・実情を踏まえた進路選択の意識を高めるとともに、進路実現に向けた具体的な行動を促す。 ・就職希望者：インターンシップ参加・求人票の見方、活用の仕方の理解 ・進学希望者：2校以上のオープンキャンパス参加、他校比較、模試の自主的受験 ・未 決 定：インターンシップ参加、または、オープンキャンパス参加を促す。 ③		
	働き方改革の推進	授業や業務の効率化、会議の簡素化・時間短縮を図るとともに、教員間の連携と役割分担を明確にし、働きやすい職場環境づくりに努める。 ⑧		
第3学年	集団における生活習慣の確立	自立を目指し、あいさつの励行や、時間・服装・提出物など基本的な生活習慣の定着を図るとともに、集団生活におけるマナーやルールを自覚的に守る意識の向上を図る。 ④⑥		
	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	日々の授業や定期考査をとおりして基礎学力の定着を図る。授業態度の改善や課題提出の徹底を通じて培った学びに向かう姿勢を勤労観に繋げる。ICT機器を活用して、学力の向上・探究心の育成に努める。 ①②④		
	進路意識の高揚	進路に関する個別面談や情報提供を行い、適性・希望・実情を踏まえた進路選択の意識を高めるとともに、進路実現に向けた具体的な行動を促す。進路決定と平行して社会人スキルを身に付けさせる。 ③		
	働き方改革の推進	授業や業務の効率化、会議の簡素化・時間厳守を図るとともに、教員間の連携と役割分担を明確にし、働きやすい職場環境づくりに努める。 ⑧		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない